

見かけは似ていても、シジュウカラガン(希少亜種)は絶滅危惧種、オオカナダガン(外来亜種)は要注意外来生物なのです。

シジュウカラガンとオオカナダガン

カナダガン *Branta canadensis* と総称されるガンは、北アメリカ大陸の北部で繁殖する中～大型の水鳥です。体の大きさや色、首の長さの違いにより、8ないし12のグループ(これを亜種といいます)に分類されていますが、白い頬と黒い首はすべてに共通する特徴です。これらの亜種の中でただ一つ、外洋の急峻な島々で営巣するのがシジュウカラガン *Branta canadensis leucopareia* です。このうち、アリューシャン列島で繁殖したものは北アメリカの西海岸へ渡り、日本の群れは北千島から飛来していたと考えられています。毛皮をとる目的で島に放された天敵のキツネによって、シジュウカラガンは絶滅の寸前まで追いつめられてしまいました。

その一方、1980年代より国内で増え始めたのがオオカナダガン *Branta canadensis moffitti* です。オオカナダガンは本来アメリカ合衆国の中～北部とカナダに分布する亜種で、日本では人に飼われていたものが逃げだして野生化しました。シジュウカラガンとオオカナダガンは体重や体の大きさが明らかに異なり、両方が並んでいけば間違えることはまずありません。しかし、野外では観察条件の差により正確に識別できないケースもあります。現在は100羽前後のオオカナダガンが、静岡・山梨・神奈川県などの湖沼で周年生息し、その一部が野外で繁殖しています。個体数の急激な増加や分布の拡大、生態系への影響が心配されています。



日本で確認されたオオカナダガン



越冬のため日本に渡って来たシジュウカラガン

外来亜種がひきおこす問題と対策

オオカナダガン(外来亜種)の数が増えると困ったことが起こります。

- フン害(公園やキャンプ場の芝生・牧草地を羽毛とフンで汚す)
- 近縁のシジュウカラガンなど野生のガンカモ類との交雑
- 人への攻撃(卵やヒナを守るため近くにきた人を襲う)
- 植物への採食圧、農作物被害
- フンや抜けた羽による水質や水辺環境への悪影響、踏みつけによる土壌流出、湖岸の破壊。
- 人と動物の共通感染症の発生(餌付けされたオオカナダガンは人と野生のカモの間を行き来する)
- バードストライク(飛行機、電線、建物などへの衝突事故)
- 日本の原風景を変化させる

人間とオオカナダガンが好ましい関係を続けるには、もう一度、オオカナダガンを人の管理下にもどすことが必要です。野生化したオオカナダガンは野外から取り除くこと、飼育しているものは飛んで逃げないようにきちんと管理することが求められます。

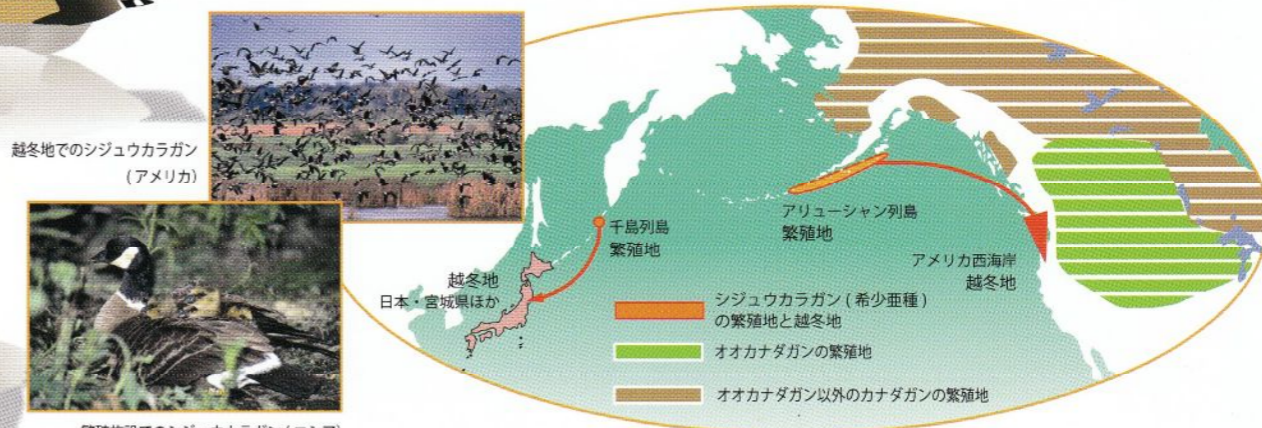


カナダガン亜種分類表

2種	シジュウカラガン(希少亜種)		オオカナダガン(外来亜種)		首の白輪	体色		
	8亜種	12亜種	体格	首				
B. hutchinsii	minima	minima	ヒメシジュウカラガン	1493		時折出現	褐色	
	leucopareia	leucopareia	シジュウカラガン	1866	小型	短小	大部分に完全な白輪	褐色
	hutchinsii	hutchinsii	コカナダガン	2053			稀	淡褐色
B. canadensis		taverncri	チュウショウカナダガン	2612	中型	中	稀	褐色
	parvipes	parvipes	チュウカナダガン	3023			しばしば白っぽい輪	淡褐色
		fulva	オオクロカナダガン	3359	中小	稀	中間	
	occidentalis	occidentalis	クロカナダガン	2986	稀	暗褐色		
	canadensis	canadensis	カナダガン	4553	中	時折白っぽい輪	褐色	
	interior	interior	ナイチカナダガン	4292	稀	中間		
	moffitti	moffitti	オオカナダガン	3732	大型	長	しばしば白っぽい輪	淡褐色
	maxima	オニカナダガン	4889		大	稀	淡褐色	

※絶滅したと考えられている *B. c. asiatica* (コシジュウカラガン) はこの表には含まれていません。

シジュウカラガン(希少亜種)の繁殖地と越冬地・オオカナダガンの繁殖地



越冬地のシジュウカラガン(アメリカ)



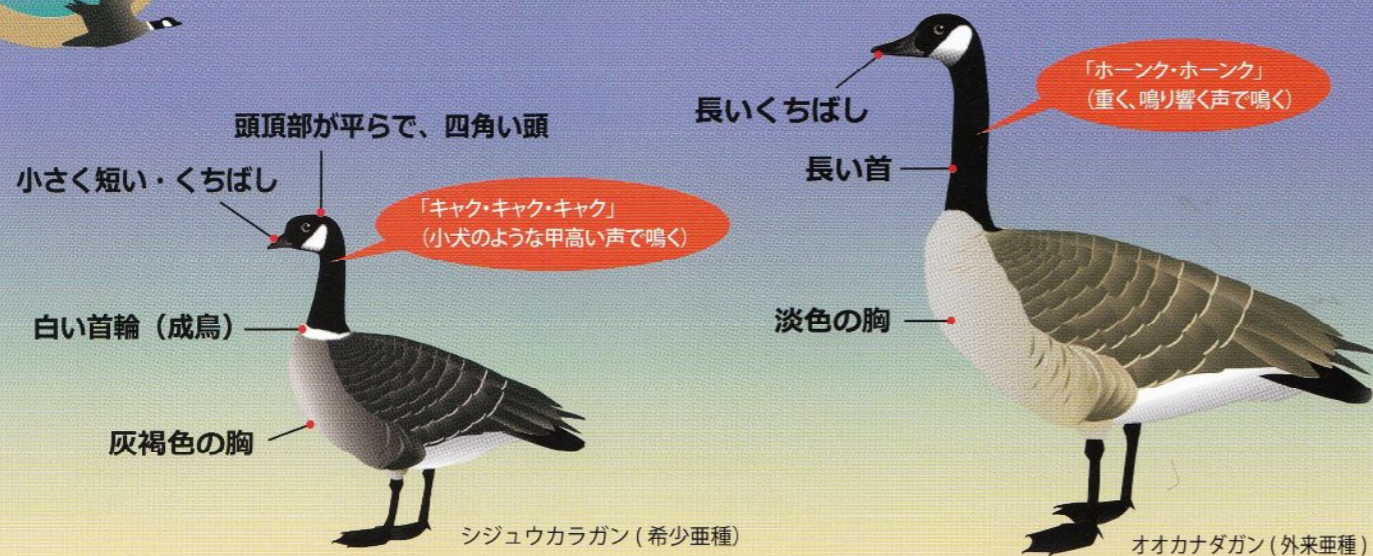
繁殖施設でのシジュウカラガン(ロシア)

8あるいは12に分類されているカナダガンのうち、オオカナダガンはもっとも大きい部類に属します。北アメリカ大陸の中央部に分布し、冬でもあまり移動しません。この亜種が海を越えて日本まで移動することはまず考えられません。その一方、シジュウカラガンは外洋の島で繁殖し、越冬のためアリューシャンの群れはカリフォル

ニアなどへ、千島のものは日本へ渡ります。近年アメリカやヨーロッパではカナダガンを、小型のグループと大型のグループの2つに分け、それぞれ異なる2つの種に分けました。その結果、小型のシジュウカラガンと大型のオオカナダガンは別々の種となりました。日本でもこの新たな分類を早く採用することが望まれます。



シジュウカラガンとオオカナダガンの見かけの違い



シジュウカラガン羽数回復計画とこれから



日本国内でシジュウカラガンの羽数を増やす試みが、1983年に仙台市八木山動物公園と日本雁を保護する会との間で始まりました。この回復計画にロシア科学アカデミーが加わり、1992年より日・米・露の共同事業として本格化しました。同年の10月カムチャツカに増殖施設が完成し、アメリカ、および八木山動物公園から繁殖用の種鳥が届きました。そこで生まれたシジュウカラガンを、かつての繁殖地である北千島のエカルマ島に運んで放しました。1995年から2010年にかけてのべ13回の放鳥で551羽を放鳥したところ、2010年度には国内への飛来数がようやく100羽を越すようになりました。国内ではオオカナダガンの個体数も増えつつあり、今後野外で正確に両亜種を区別することがますます重要になってきます。